2018年度秋学期 応用数学(解析) 第7回

第2部・基本的な微分方程式

2階線形微分方程式(1)

浅野 晃 関西大学総合情報学部



A.Asano, Ka

2階線形微分方程式

一般には $x'' + P(t)x' + Q(t)x = \underline{R(t)}$

ここが恒等的に0なのが [斉次] そうではないのが [非斉次]

一番簡単なのは x'' + ax' + bx = 0 定数係数の音次方程式

とりあえず、 $x \equiv 0$ は解 [自明解] それ以外には?

A. Asano, Kansai

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 – 3

2階線形微分方程式とは99

2階線形微分方程式の解

とりあえず

$$x'' + ax' + bx = 0$$
 に $x(t) = e^{\lambda t}$ を代入すると

$$\lambda^2 e^{\lambda t} + a\lambda e^{\lambda t} + be^{\lambda t} = 0$$

$$(\lambda^2 + a\lambda + b) e^{\lambda t} = 0$$

ここが 0 になるような λ については $x = e^{\lambda t}$ は解,その定数倍も解

 λ **の**2次方程式だから、みたす λ はたいてい2つ λ_1, λ_2

一般解は $x = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$ $x \equiv 0$ を含む

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 – 4

おわり

こんなんでいいのか?6

本当に一般解であるためには

 $x = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$ が本当に一般解であることは、 以下の2項目が正しいことと同じ

1.解が一意

初期値 $x(t_0), x'(t_0)$ を定めると、特殊解はひとつ 初期値はこの2つ に定まる

2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

1次独立な特殊解 $x_1(t), x_2(t)$ が得られれば、

一般解は $C_1x_1(t) + C_2x_2(t)$ で表される

本当に一般解であるためには 2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる 1次独立な特殊解 $x_1(t), x_2(t)$ が得られれば、 一般解は *C*₁*x*₁(*t*) + *C*₂*x*₂(*t*) で表される 2つの関数が1次独立とは $C_1x_1(t) + C_2x_2(t) = 0$ がどんなくについても なりたつのは、 $C_1 = C_2 = 0$ のときだけ 解全体は 2次元ベクトル空間 をなす 2018年度秋学期 応用数学 (解析) 26 – 8

本当に一般解であるためには

- 1. 解が一意
- 2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

さっきの例では

 $e^{\lambda_1 t}$, $e^{\lambda_2 t}$ は $\lambda_1 \neq \lambda_2$ なら1次独立

- 一般解は $C_1e^{\lambda_1t} + C_2e^{\lambda_2t}$ だけで、他にはない
- 一般の斉次形 n 階線形微分方程式 (定数係数でない場合も含む) についてなりたつ

定数係数の場合に、証明してみる

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

6-9

行列で表現する

$$x''+P(t)x'+Q(t)x=R(t)$$
 を, $x_1=x,x_2=x'$ とおいて $x_1'=x_2$ と表す $x_2'=-Q(t)x_1-P(t)x_2+R(t)$

行列で $\begin{pmatrix} x_1' \\ x_2' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -Q(t) & -P(t) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ R(t) \end{pmatrix}$ $m{x}' = A(t) m{x} + m{b}(t)$

1 階線形微分方程式の形になる 何階線形微分方程式でも、この形にできる

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

24 10

条件1の証明の概略

1.解が一意

初期値 $x(t_0), x'(t_0)$ を定めると、特殊解はひとつに定まる

リプシッツ条件をつかう

特異解と解の一意性

初期値がひとつ定まったときに、 解がひとつだけに決まることを、 解が一意(unique)であるという

一意性の十分条件のひとつ「リプシッツ条件」

微分方程式が x'(t) = f(t,x) のとき, 初期値のまわりでどんな x_1, x_2 についても

 $|f(t,x_1) - f(t,x_2)| \le L|x_1 - x_2|$

となる定数 L があるなら、その初期値について一意

x のわずかな変化について, fがいくらでも大きく変化する,ということはない

(解析)

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 - 12

条件1の証明の概略

1. 解が一意

初期値 $x(t_0), x'(t_0)$ を定めると、特殊解はひとつに定まる

リプシッツ条件をつかう

x' = A(t)x + b(t) の右辺について、関数 x, y を考えると

$$\|(A(t)x + b(t)) - (A(t)y + b(t))\| = \|A(t)x - A(t)y\|$$
 \mathcal{C}_{\bullet}

 $\|A(t)oldsymbol{x} - A(t)oldsymbol{y}\| \leqq \|A(t)\| \|oldsymbol{x} - oldsymbol{y}\|$ となるような ノルムがある

ノルムが連続なので、任意の有界閉区間で

上限が存在する

リプシッツ条件が

成り立ち、一意

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 – I3

条件2の証明の概略

2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

1次独立な特殊解 $x_1(t)$, $x_2(t)$ が得られれば, 一般解は $C_1x_1(t) + C_2x_2(t)$ で表される

斉次形の場合を考える x' = A(t)x

テキストはn階の場合を示しているが、 ここでは2階の場合を示す

まず,

 $e_1 = (1,0), e_2 = (0,1)$

一般解をx(t)とするとき

は,2次元の基本ベクトル

 $t=t_0$ のときの初期値は $x(t_0)=x_1e_1+x_2e_2$ の形で表せる

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 –

条件2の証明の概略

2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

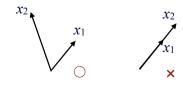
 $m{x'} = A(t) m{x}$ の特殊解を、2つ考える 初期値 $m{x}(t_0) = m{e}_1$ をみたすもの $m{\xi}_1(t)$ は、2次元の 初期値 $m{x}(t_0) = m{e}_2$ をみたすもの $m{\xi}_2(t)$ 基本ベクトル

この特殊解 $\xi_1(t), \xi_2(t)$ は、1次独立。本当?

本当に一般解であるためには

2つの関数が1次独立とは

 $C_{1}x_{1}(t) + C_{2}x_{2}(t) = 0$ がどんな t についてもなりたつのは、 $C_{1} = C_{2} = 0$ のときだけ



Acano Kancai Haiv

条件2の証明の概略

2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

x' = A(t)x の特殊解を、2つ考える 初期値 $x(t_0) = e_1$ をみたすもの $\xi_1(t)$

 $e_1 = (1,0), e_2 = (0,1)$

初期値 $x(t_0) = e_2$ をみたすもの $\xi_2(t)$

は、2次元の 基本ベクトル

この特殊解 ξ₁(t),ξ₂(t) は、1 次独立 ←

 $\therefore c_1 \xi_1(t) + c_2 \xi_2(t) = 0$ が任意の t についてなりたっとする t=toのときも当然なりたつ

$$c_1oldsymbol{\xi}_1(t_0)+c_2oldsymbol{\xi}_2(t_0)=oldsymbol{0}$$
 $oldsymbol{e}_1,oldsymbol{e}_2$ は1 次独立だから

$$c_1e_1+c_2e_2=0$$
 \longleftarrow これがなりたつのは $c_1=c_2=0$ に限る

2018年度秋学期 広田教学 (解析)

定数係数の 斉次形 2 階線形微分方程式を 解く?

条件2の証明の概略

2. 1次独立な特殊解の1次結合で一般解が表せる

初期値 $x(t_0) = e_1$ をみたす $\xi_1(t)$ 初期値 $x(t_0) = e_2$ をみたす $\xi_2(t)$

一般解を $\hat{x}(t)$ とするとき

 $oxed{(t=t_0)}$ のときの初期値は $oxed{x}(t_0)= oxed{(x_1e_1+x_2e_2)}$ の形で表せる

特殊解の1次結合 $x_1\xi_1(t) + x_2\xi_2(t)$ を考えると $(t = t_0$ のとき $(x_1e_1 + x_2e_2)$

どちらも同じ初期値 をもつ

・一般解で表された x(t)

・特殊解の1次結合 $x_1\xi_1(t)+x_2\xi_2(t)$ 一意だから、それらは

同じ解

 $x(t) = x_1 \xi_1(t) + x_2 \xi_2(t)$

2階線形微分方程式を解く

$$x'' + ax' + bx = 0$$
 定数係数の
音次形 2 階級

音次形 2 階線形微分方程式

 $\lambda^2 + a\lambda + b = 0$ をみたす λ について $x = e^{\lambda t}$ は解 特性方程式という

特性方程式の解の形によって、3パターン

異なる2つの実数解の場合 異なる2つの虚数解の場合 重解の場合

実数解が2つの場合

特性方程式の

異なる2つの実数解 λ_1,λ_2

微分方程式の

 $e^{\lambda_1 t}, e^{\lambda_2 t}$

一般解は
$$x(t) = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$$

(つまり、最初のとおり)

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

虚数解が2つの場合

一般解は $x(t) = C_1 e^{(\alpha+i\beta)t} + C_2 e^{(\alpha-i\beta)t}$

さらに計算すると

$$x(t) = C_1 e^{(\alpha+i\beta)t} + C_2 e^{(\alpha-i\beta)t}$$
 $= e^{\alpha t} \left(C_1 e^{i\beta t} + C_2 e^{-i\beta t} \right)$ なぜ三角関数になるのかは、また先で
 $= e^{\alpha t} \left(C_1 (\cos(\beta t) + i\sin(\beta t)) + C_2 (\cos(\beta t) - i\sin(\beta t)) \right)$
 $= e^{\alpha t} \left((C_1 + C_2)\cos(\beta t) + i(C_1 - C_2)\sin(\beta t) \right)$

定数を置き直して、一般解は

$$x(t) = e^{\alpha t} \left(C_1 \cos(\beta t) + C_2 \sin(\beta t) \right)$$

振動を表している これも先で

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

重解の場合

ふつうにやると、微分方程式の解は $C_1e^{\lambda_1t}$ しか出て来ない

これと 1 次独立なもうひとつの解は $te^{\lambda_1 t}$

確かめるため、解を微分して、微分方程式に代入してみる

$$(te^{\lambda_1 t})' = \lambda_1 te^{\lambda_1 t} + e^{\lambda_1 t} = (\lambda_1 t + 1)e^{\lambda_1 t}$$
$$(te^{\lambda_1 t})'' = \lambda_1 (\lambda_1 t + 1)e^{\lambda_1 t} + \lambda_1 e^{\lambda_1 t} = (\lambda_1^2 t + 2\lambda_1)e^{\lambda_1 t}$$

微分方程式の左辺に代入すると

$$(\lambda_1^2 t + 2\lambda_1)e^{\lambda_1 t} + a\lambda_1 t e^{\lambda_1 t} + bt e^{\lambda_1 t}$$

= $\{\lambda_1^2 + a\lambda_1 + b\}t e^{\lambda_1 t} + (2\lambda_1 + a)e^{\lambda_1 t}$

 $C_1e^{\lambda_1t}+C_2te^{\lambda_1t}$

λιは特性方程式の解 特性方程式の だから0

解と係数の関係で0

見つけ方はテキストで (定数変化法)

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 - 23

例題

例題

$$x'' - 5x' + 6x = 0$$
 を解いて、

初期値 x(0) = 1, x'(0) = 0 での特殊解を求めよ。

特性方程式は $\lambda^2 - 5\lambda + 6 = 0$ その解は $\lambda = 2,3$

異なる2つの実数解なので、微分方程式の一般解は

$$x(t) = C_1 e^{2t} + C_2 e^{3t}$$

初期条件から

$$x(0) = C_1 + C_2 = 1$$
$$x'(0) = 2C_1 + 3C_2 = 0$$

$$x'(0) = 2C_1 + 3C_2 =$$

$$x(t) = 3e^{2t} - 2e^{3t}$$

$$C_1 = 3, C_2 = -2$$

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 - 25

今日のまとめ

定数係数・斉次形の 2 階線形微分方程式 x'' + ax' + bx = 0

次回は非斉次形 (右辺が0でない) をやります

2018年度秋学期 応用数学 (解析)

26 - 26